



地方独立行政法人加古川市民病院機構 令和6年度業務実績の概要

2. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 公立病院としての役割の発揮と責務の遂行

(1) 救急医療への対応・・・**4**

- ・社会環境の変化とともに救急要請件数が増加傾向にあり、加えて、働き方改革などの影響により、圏域全体で夜間・休日の救急受入体制が低下してきている中、心臓血管センター、周産母子センター、こどもセンターでは、24時間365日の救急受入体制を維持し、過去最高であった昨年度とほぼ同等の救急車受入件数を維持した。一方で処理能力を超える救急要請に対して要請を断るケースが発生し、不応率は16.6%となった。
- ・地域の医療機関と協議を行い、同意を得た13の医療機関と連携し、ドクターカーによる早期の下り搬送を実現し、地域全体で、よりスムーズな救急受入体制を整備した。

(2) 災害時における機能の強化・・・**4**

- ・DMATについては2隊編成が可能となり、地域災害拠点病院として体制の充実を図った。また、兵庫県合同防災訓練、DMAT近畿地方ブロック訓練など、大規模地震を想定した訓練に参加した。
- ・院内においても、災害対策本部立ち上げ訓練、備蓄食配布訓練、火災を想定した避難訓練など、様々な訓練を実施し、災害時対応力の強化を図った。

(3) 感染症対策の強化・・・**4**

- ・新興感染症への備えとして、兵庫県と医療措置協定を締結し、院内体制の整備を行った。
- ・高齢者施設への研修や相談介入を行い、地域の医療機関や高齢者施設に対する感染症対策を推進した。

(4) 地域の中核医療機関としての役割の発揮・・・**5**

- ・地域の医療・介護従事者に向けた研修会を実施し、過去の参加実績を分析し、座学だけではなく実技等を盛り込み、多様性に富んだ研修内容になるよう見直しを図った。
- ・地域連携セミナーを開催し、医療機関・後方連携機関と顔の見える関係を引き続き維持するとともに、入院前から退院後の在宅療養までの連携体制強化を図り、地域の中核病院としての役割を果たした。

2 高度・専門医療の提供

(1) がん医療の充実・・・**4**

- ・終末期がん患者の意向やニーズを背景に、緩和ケアセンターの機能を強化し、4月に緩和ケア科を、7月には緩和ケア病棟(PCU)を開設し、運用を開始した。
- ・手術支援ロボット(ダヴィンチ)では、新たに結腸切除の適用を開始し、放射線治療では、AI搭載の治療計画CTを導入し、治療計画をスムーズに行うことで治療の早期開始が可能となった。また、12月には、がんゲノム医療連携病院の指定を受け、がんゲノム外来を開始し、治療の充実を図った。
- ・増築棟の完成により、常設のがんサロンを開設し、情報提供や相談体制の充実を図り、患者や家族の支援を行った。

(2) 循環器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・24時間365日体制で急性期循環器症例の受入や、脳卒中の救急医療体制の確立へ向けた取り組み、低侵襲治療の拡大、循環器領域への緩和ケアの導入など地域の心臓血管センターとしての役割を果たした。
- ・他の医療機関では対応困難な腎不全、心不全など合併症を伴う脳卒中患者の対応を継続して実施した。

(3) 消化器疾患にかかる医療の充実・・・**4**

- ・総合的な診療体制により、出血を伴う消化管急性疾患や、胆管炎、胆道閉塞などの急性疾患に対する緊急内視鏡治療に対応し、地域の救急医療をカバーしている。
- ・直腸がん、胃がんに加え、結腸がんに対する手術支援ロボット(ダヴィンチ)の適用を開始した。

(4) 周産期医療の充実・・・**4**

- ・地域周産期母子医療センターとして地域の三次救急の役割を担い、24時間365日ハイリスク妊産婦をはじめ緊急性の高い母体、新生児救急症例の受入を行った。
- ・地域の分娩施設の減少により、当院での分娩件数は大幅に増加した。

(5) 小児医療の充実・・・**4**

- ・小児地域医療センターとして、24時間365日の救急受入体制を堅持した。
- ・小児神経、アレルギー、小児腎臓などの専門医が在籍し、様々な専門外来を実施した。特に気道評価は圏域を超えた広範囲からの患者に対応し、増加傾向にある。

(6) センター診療機能の更なる充実・・・**3**

- ・呼吸器センターでは、がん化学療法において、術前・術後の適用拡大がされ、呼吸器内科・呼吸器外科のより一層の連携が必要となり機能を充実した。呼吸器内科では、新たにクライオ生検を導入した。

(7) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・**5**

- ・増築棟の完了により、緩和ケア病棟の開設や、小児・周産期領域から一般病棟へ変更など、医療需要に合わせた病床再編を行った。また、認知症疾患医療センターでは、抗体製剤外来を設置し、軽度認知障害の治療体制を整備した。**(総合診療体制の強化)**
- ・手術室2室を増室し、うち1室はハイブリット手術室を整備し、脳血管治療をはじめ循環器領域の手術の拡充が図れた。また、2024年12月にがんゲノム医療連携病院の指定を受け、ゲノム外来を開始した。**(高度・専門医療の提供)**
- ・看護外来は慢性腎臓病療養支援外来(CKD)開設し13看護外来にて多職種連携し在宅療養支援を行った。**(チーム医療の推進)**

(8) 高度・専門医療を提供する人材の確保と育成・・・**5**

- ・幅広い診療科目を有する急性期総合病院として、様々な症例経験やトレーニング機器を用いた実習、離島を含めた地域医療研修など多様な研修プログラムを用意し、学べる病院としての機能を発揮した。また、卒後臨床研修評価機構(JCEP)による第3者評価を受け基準を満たす研修施設と認定された。
- ・特定行為認定研修施設として10区分24行為の研修を実施し、当院の2名が研修を修了し、2名が科目追加研修を修了した。さらに、他の研修指定機関からの実習生2名を協力施設として受入れ、実技の研修を実施した。

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全管理及び感染対策の徹底・・・**4**

- ・これまでインシデント報告が少なかった診療部において、リスクマネージャーを設置し、インシデント報告の徹底と事案の共有及び再発防止に努めた。
- ・病理細胞診、組織診、内視鏡レポートに対するパニックアラート運用に加えて、放射線、内視鏡、一般検体検査、心電図、超音波等、多岐に渡る部門検査の未読結果・レポートを通知する既読管理システムの適正な監視体制を継続し、見落とし防止を図った。

(2) 患者とともに進める医療の推進とサービスの充実・・・**4**

- ・入院時重症患者対応メディエーターの配置や、社会保険労務士による療養・就労両立支援など、患者に寄り添い、患者の意思決定を支援する体制を維持した。

3. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自律性・機動性・透明性の高い組織運営

(1) 効率的・効果的な組織運営・・・**4**

- ・部門別稼働状況や重要情報を共有する運営協議会の月次開催を継続したほか、稼働状況など各種経営指標を日計で表示し全職員に公開することで、職員の経営参画意識を醸成している。
- ・公式Lineを開始し、タイムリーな情報発信を実施し、より多くの方に情報が届くよう務めた。

(2) コンプライアンスの徹底・・・**4**

- ・パワハラに関するアンケート実施による実態把握や、研修などによる個人情報保護や職員倫理に関する理解の深化、様々な情報セキュリティ対策の実施など、コンプライアンスの徹底を図った。

2 働きやすく、やりがいのある職場づくり

(1) やりがいづくり、モチベーションアップへの取組の充実・・・**4**

- ・システミックコーチングにより、風通しの良い組織風土が定着しつつある。また、半期ごとの所属長による評価面談の機会を通して、職員が設定した目標とその達成状況を振り返ることで、成果の承認や課題の認識によって職員自身の成長を促した。
- ・職員満足度調査を継続し、職員ニーズの変化の把握に努めた。

(2) 働き方改革の推進・・・**4**

- ・労働および労働以外の時間区分のモニタリングシステムを活用し、管理者が適宜指示調整を行い、変則労働時間の設定やシフト勤務を活用しながら時間外勤務の削除等の取組みを進めた結果、働き方改革制度の施行に対し、すべての診療科で承認された基準に対し、逸脱はなかった。

4. 財務内容の改善に関する事項

1 経営基盤の強化・・・**5**

- ・人口推計やDPCデータを用いた将来受療予測を行い、働き方改革を踏まえた人員配置計画や地域連携活動に活用した。
- ・病院経営に影響する様々な指標を院内開発のBIシステムによってタイムリーにモニタリングし、経営課題を的確に把握することで、迅速な対応を実現している。

2 収益の確保及び費用の最適化・・・**4**

- ・診療報酬の査定減点の詳細な分析を行い、委員会検討した。内容は各診療科にフィードバックし、要注意項目に対して医師と事務が協力して対策を行った。
- ・BIシステムによる各種経営指標モニタリングを病院全体に共有し、諸課題に対して迅速に対応した。
- ・コスト削減プロジェクトを立上げ、診療材料の見直しや運用方法の見直し、節電への取り組み、廃棄物の分別の徹底し、コピーの使用方法の見直しなど病院全体でコスト削減を意識した取り組みを進めた。
- ・急性期病院に望まれる体制や実績を維持し、急性期充実体制加算の算定を維持した。

5. その他業務運営に関する重要事項

1 地域社会への貢献

(1) 地域社会との協働の推進・・・**3**

- ・地域住民に向けた健康講座の現地での開催を再開し、健康促進や病院と地域とのコミュニケーションの場を提供した。看護の日イベント、病院フェスタを再開し地域住民との交流を図った。
- ・加古川市のスポーツイベントへ医師や看護師の派遣を行うなど、様々なイベントへの参加を行った。

(2) 市施策への協力・・・**3**

- ・加古川市養護学校の修学旅行へ小児科医師、看護師が同行した。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	8,500	8,545	100.5%
救急車受入要請に対する不応率	10.0	16.6	92.7%
人間ドック受診者数	2,900	2,999	103.4%
紹介率	77.0	78.9	102.5%
逆紹介率	95.0	96.3	101.4%
がん登録件数	2,500	2,129	85.2%
悪性腫瘍手術件数	1,700	1,665	97.9%
放射線治療計画件数	420	512	121.9%
化学療法件数	14,500	15,573	107.4%
緩和ケアチーム介入件数	200	222	111.0%
冠動脈インターベンション件数	500	404	80.8%
アブレーション件数	330	350	106.1%
デバイス治療件数	220	219	99.5%
末梢血管インターベンション件数	100	94	94.0%
開心術・心血管手術件数	250	352	140.8%
心臓リハビリテーション単位数	30,000	28,726	95.8%
上部内視鏡検査件数	8,900	8,661	97.3%
下部内視鏡検査件数	4,300	4,264	99.2%
内視鏡的粘膜切除術(EMR)件数	580	559	96.4%
内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)件数	135	130	96.3%
分娩件数	750	843	112.4%
ハイリスク分娩件数	150	166	110.7%
小児救急搬送受入件数	2,000	1,919	96.0%
手術件数	9,000	9,293	103.3%
MR I件数	23,500	24,086	102.5%
CT件数	62,000	70,443	113.6%
PET-CT件数	2,220	2,210	99.5%
クリニックカルパス利用率	65.0	67.9	104.5%
医師数(専門医研修医及び初期臨床研修医を除く。)	179	179	100.0%
専門医研修医数(専攻医)	65	65	100.0%
初期臨床研修医数	31	31	100.0%
患者満足度/入院	95.0	94.0	98.9%
患者満足度/外来	85.0	87.3	102.7%
職員満足度(%)	70.0	70.3	100.4%
累積経常利益(百万円)	16,396	17,208	105.3%
経常収支比率	100.0	103.0	103.0%
医業収支比率	100.8	103.9	103.1%
医業収益(百万円)	28,013	28,208	100.7%
入院収益(百万円)	18,587	18,437	99.2%
外来収益(百万円)	8,919	9,240	103.6%
入院診療単価(円)	94,300	93,800	99.5%
外来診療単価(円)	24,800	25,140	101.4%
1日あたり入院患者数	540	539	99.8%
1日あたり外来患者数	1,480	1,519	102.6%
病床稼働率	90.0	89.8	99.8%
給与費比率/対医業収益	45.9	43.9	104.6%
診療材料費比率	16.1	16.1	100.0%
医薬品費比率	15.8	16.4	96.3%
経費比率/対医業収益	14.2	13.4	106.0%